

臨床実習感想文

首都医校 理学療法学科4年 K. O

今回の臨床実習は評価実習ではあまり経験出来なかった整形外科疾患の患者様を見ることが出来ました。学校では学ぶことはできない実際の現場ならではの知識や技術などを見学したり、体験することで多くのことを学ぶことが出来ました。多くの患者様は主に痛みを訴え、痛みに対して4人の現役のセラピストがどうアプローチしているのを見ることが出来、大変勉強になりました。評価を行う上で患者様からの信頼を得ることがなにより大切だと感じました。信頼を得るために患者様の訴えを理解することが大切だと思いました。患者様に対する態度や医療従事者としての立ち居振る舞いを学ぶことで患者様との関係性を構築し、評価から治療までを円滑に行うことが出来ると思いました。患者様にリハビリを行う上で患者様のやる気を引き出すことが大切だと思いました。リハビリを積極的に行ってもらうために評価から得た情報を正しく、わかりやすく説明し、リハビリのメリットを提示することで痛みの軽減や円滑な動作遂行につながることを指導することが必要だと感じました。そのために必要な知識や技術を身に着けることを目標に2か月間の実習に励むことが出来ました。評価の正確性を得るために正しい解剖学や運動学、生理学の知識が必要だと実感しました。基礎を理解しないと応用にも進むことが出来ないため、基礎医学を知ることが大切だと思いました。現役のセラピストの疾患の見方を参考に自分でも評価から治療に介入し、自分が考えた治療で患者様の痛みの軽快や動作の変化が見られたことがとても嬉しかったとともにやりがいを感じる事が出来ました。また、変化が見られなかった時、どうすれば軽快が得られるかを試行錯誤して治療を行うことに楽しさを感じました。患者様に触れることは怖く、自分で行う評価、治療が患者様を良くも悪くもするため、責任感があり、プレッシャーを感じることもありましたが、「前より動作が楽になった」、「痛みが減った」など患者様のお声がとても励みになりました。2ヶ月の実習は学ぶべきことが多く、知識や技術を身に着けるために勉強に励むのは大変でしたが御指導頂いた先生、スタッフの方々、患者様が優しく接していただき、励みの言葉をかけて頂いたおかげで辛くても勉学に励むことが出来ました。また見学させて頂くことを快く受け入れてくれ、実際にお身体を触らせていただく機会を与えて頂いたことに大変感謝しております。

2ヶ月間で至らぬ点も多かったと思いますが、知識や技術が向上を実感し、実習に行く前よりも成長することが出来ました。これもわかりやすく丁寧に御指導頂いた田中先生、今井先生、相川先生、工藤先生のおかげです。ありがとうございました。